



医療法人 愛仁会  
新潟脊椎外科センター  
20年のあゆみ

医療法人 愛仁会

新潟脊椎外科センター

20年のあゆみ

# 愛仁会 新潟脊椎外科センター 20年のあゆみ

目

次

ご挨拶 .....	1
1 常勤医・研修医および教育 .....	2
2 診療実績 .....	5
3 社会啓蒙活動 .....	7
4 学会、医学雑誌関連活動 .....	12
5 受賞 .....	15
6 学術業績 .....	16
7 学会発表および講演 .....	27

## ご挨拶

医療法人愛仁会 新潟脊椎外科センターは、脊椎疾患の研究と診療技術の発展のため、本間隆夫によって平成11年（1999年）に医療法人愛仁会の構成組織の一つとして設立されました。当センターは、全国初めての「脊椎外科専門センター」として活動を開始し、患者本位の最先端の治療を目指して、日々診療してまいりました。私共の診断および治療方法は、長い経験の中で培われた内容であること、最新の科学的経験に支持された、世界標準レベル以上のものであることを基本にしてまいりました。

当センター脊椎手術の特徴は、一般的な内容に加えて、

- 1 高齢化社会で激増しつつある変性疾患に対する顕微鏡および内視鏡を駆使した高精度低侵襲手術
- 2 若年者から高齢者までの重度脊柱変形に対する高度矯正・固定手術
- 3 最新の脊髄モニタリング（手術中に神経機能を確認しながら操作を行う監視装置）による安全対策

などがあげられます。

また、私共は国内外で学会活動や講演、社会活動をするかたわら、全国からの脊椎疾患の診断や手術技術の向上をめざす専門医（整形外科医、脳外科医）の方々をこれまで100名以上受け入れて、指導してきました。彼らは、現在、全国各地で本邦の脊椎脊髄外科医療を支えています。

私共の診療体制は、“完全主治医制”です。脊椎外科専門医である主治医が病気のしくみ、検査内容、手術方法、手術後のリハビリテーション、退院後の生活指導を含めて細かい点まで患者の相談にお答えしつつ診療を進めてきました。このような診療体制は、専門的な知識と経験を持った看護師、臨床工学士、理学・作業療法士、放射線技師、医事課スタッフの皆様の献身があって初めて可能となったものです。センタースタッフ一同、心より感謝申し上げます。

脊椎・脊髄疾患に悩める方々のために、今後とも御協力を御願い申し上げます。

# 1. 常勤医・研修医および教育

## 勤務医

センター長	長谷川和宏 (2005年9月1日～)
部長	下田 晴華 (2006年1月4日～)
顧問	本間 隆夫 (1999年10月16日～)

## フェロー (脊椎外科専門研修医)

年	氏名	所属	氏名	所属
2006 (H18)	我謝 猛次	琉球大学 整形外科	吉原 裕之	Drexel University College of Medicine, NY, USA
	譲原 雅人	亀田総合病院 脳神経外科	伊東 清志	信州大学 脳神経外科
2007 (H19)	高野 光	新潟大学 整形外科	杉田 京一	水戸医療センター 脳神経外科
2008 (H20)	顧 樹明	北京同仁病院 整形外科、中国	杉田 京一	水戸医療センター 脳神経外科
	當麻 俊彦	八尾徳州会総合病院 整形外科		
2009 (H21)	佐々木寛二	香川大学 整形外科	杉田 京一	水戸医療センター 脳神経外科
2010 (H22)	杉田 京一	水戸医療センター 脳神経外科		
2011 (H23)	杉田 京一	水戸医療センター 脳神経外科		
2012 (H24)	石井 圭史	札幌医科大学 整形外科		
2014 (H26)	小野 真稔	聖マリアンナ医科大学 整形外科		
2015 (H27)	工藤 大輔	秋田大学 整形外科	上田 明希	京都大学整形外科、アメリカ留学中
2016 (H28)	吉原 裕之	SUNY Downstate Medical Center, NY, USA	高見 正成	和歌山県立医科大学 助教
2017 (H29)	東野 修	九州大学病院別府病院 (助教)		
2018 (H30)	金城 英傑	中之島いわき病院 (大阪) 整形外科	佐藤 雄亮	東京大学 整形外科
2019 (H31)	堤本 高宏	国保依田窪病院脊椎センター長		

他 国内外より 99 名の手術・診療見学者



2007年10月 北京同仁病院にて

---

## 新潟脊椎外科センター 研修プログラム

### 1. はじめに

脊椎脊髄外科における適切な診断および治療を行うためには、骨関節外科の範疇に留まらず、きわめて広い分野を網羅する必要があります。

新潟脊椎外科センターにおける研修の目標は、

- ・的確な診断ができること
- ・効率よく、しかも安全な検査および治療が遂行できること
- ・自らの発想で臨床研究を実施してゆくことができること

であります。

本目標に近づくための研修プログラムを作成いたしました。この内容はあくまでも目的地に到達するまでの地図でしかありません。険しい道のりを、自らが汗をかいて歩まなければ目的地に至ることはできません。皆様の健闘を期待します。

### 2. ベーシックコース 研修目標

- ・患者との接し方、診察法、画像診断を身につけ、一般的疾患の理解を深めながら、基本的診断法を身につけること
- ・習得すべき項目
  - 外科的一般知識と基本手技
  - 整形外科における基本的知識と手技
  - 神経診断学
  - 脊椎外科のための解剖学
  - 脊椎外科に関するバイオメカニクス
  - 脊椎脊髄疾患のリハビリテーション

### 3. アドバンスコース 研修目標

- ・ベーシックコースを習得していることが原則
- ・手術適応となる全ての脊椎・脊髄疾患に対して、最も効果的なアプローチを行い、神経除圧もしくは病変切除、脊柱再建を行えること
- ・疾患別の術後療法を習得
- ・術後経過観察方法、および評価法を習得
- ・自らが行った治療例をまとめて報告すること
- ・習得すべき項目
  - 外科的一般知識と基本手技
  - 整形外科における基本的知識と手技
  - 神経診断学
  - 脊椎外科のための解剖学
  - 脊髄のマイクロサージャリー
  - 脊椎外科に関するバイオメカニクス

- 
- ▶ 脊椎インストゥルメンテーション手術
  - ▶ 脊髄モニタリング
  - ▶ 胸部外科的解剖と基本手技
  - ▶ 腹部外科的解剖と基本手技
  - ▶ 脊椎腫瘍の病理、化学療法、放射線療法、外科手術、緩和ケア
  - ▶ 脊椎内視鏡手術のための解剖と基本手技
  - ▶ 脊椎脊髄疾患のリハビリテーション

#### 4. 講義

ベーシック、アドバンス両コース共通の講義として、下記項目について各々1時間程度の講義を行う。

##### 【ベーシック・総論】

- 1) 神経診断
- 2) 脊椎・脊髄の解剖およびバイオメカニクス
- 3) 脊椎・脊髄の画像診断
- 4) 脊椎・脊髄手術器具の概要と使い方

##### 【各論】

- 1) 腰痛、腰椎椎間板ヘルニア
- 2) 腰部脊柱管狭窄症、すべり症、変性側弯症
- 3) 頚椎症性脊髄症、頚椎椎間板ヘルニア、頚椎 OPLL
- 4) 脊柱変形
- 5) 脊椎骨粗鬆症
- 6) 脊椎外傷
- 7) 脊椎腫瘍
- 8) 脊髄腫瘍

#### 5. 研究検討会

当センターで行っている臨床・基礎研究について、毎月1～2回の研究検討会を開催する。

- 1) Slot-scanning 3D X-ray imager (EOS) に関する研究
  - ・ 脊柱アライメント
  - ・ 立位バランス
- 2) 脊椎・脊髄のバイオメカニクス
  - ・ 有限要素法解析
  - ・ 歩行解析
- 3) 電気診断研究
  - ・ 術中脊髄モニタリング
  - ・ 筋電図を併用した立位バランス研究
- 4) 他 随時 新しい分野の研究を含める

## 2. 診療実績

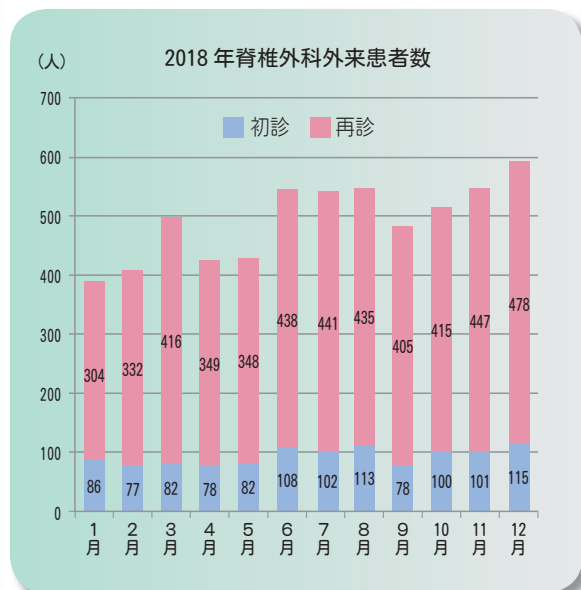
### 外来受診数

単位：人

年 月	新患者数	再来患者数	外来患者数
2007年1月～12月			5,121
2008年1月～12月			6,658
2009年1月～12月			7,234
2010年1月～12月			7,188
2011年1月～12月			7,026
2012年1月～12月	1,261	5,913	7,174
2013年1月～12月	1,281	5,947	7,228
2014年1月～12月	1,260	6,069	7,329
2015年1月～12月	1,262	5,709	6,971
2016年1月～12月	1,310	5,718	7,028
2017年1月～12月	1,101	5,187	6,288
2018年1月～12月	1,122	4,808	5,930

### 2018年脊椎外科外来患者数

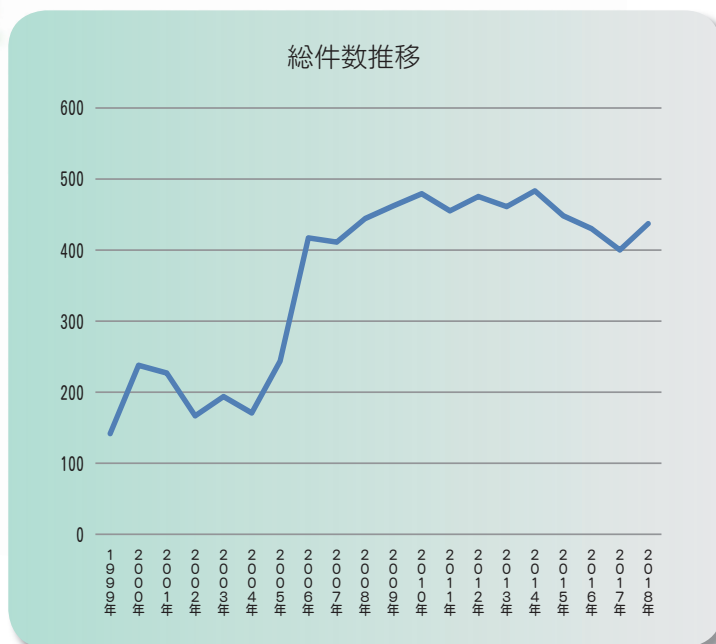
月	初診	再診	合計
1月	86	304	390
2月	77	332	409
3月	82	416	498
4月	78	349	427
5月	82	348	430
6月	108	438	546
7月	102	441	543
8月	113	435	548
9月	78	405	483
10月	100	415	515
11月	101	447	548
12月	115	478	593
合計	1,122	4,808	5,930





## 新潟脊椎外科センター 年別手術件数

西 暦	総件数
1999年	142
2000年	238
2001年	227
2002年	167
2003年	194
2004年	171
2005年	244
2006年	417
2007年	411
2008年	444
2009年	462
2010年	479
2011年	455
2012年	475
2013年	461
2014年	483
2015年	448
2016年	430
2017年	400
2018年	437
2019年(9月まで)	381
合 計	7,566



### 3. 社会啓蒙活動

#### 県民せきついフォーラム

会場：新潟市民プラザ（NEXT21 ビル6階）

回	開催日	演者	演題
第1回	2006年4月30日	本間 隆夫	「あなたの腰痛が治りにくいわけ」
		長谷川和宏	「脊椎の病気—最新の治療は—」
第2回	2007年3月31日	本間 隆夫	「むち打ち症—そのうそとまぼろし—」
		長谷川和宏	「せぼねや腰の曲がる病気」
第3回	2008年4月12日	本間 隆夫	「脊柱管狭窄症」 —長寿社会で多発する新しい国民病—
		長谷川和宏	「体の負担のすくない新しい脊椎手術について」
第4回	2009年4月11日	本間 隆夫	「頰椎の病気」—肩こりから手足のしびれへ—
		長谷川和宏	「腰痛はなぜ起きるか？どのように治療するか？」
第5回	2010年4月11日	本間 隆夫	「現在の腰痛治療の誤りと反省」 —むだな医療費と時間を費やさないために—
		長谷川和宏	「手術で治せる頰椎の病気」
第6回	東日本大震災のため、中止		
第7回	2012年4月7日	本間 隆夫	「あなたの腰痛がなおりにくいわけ—その2 心と腰痛」
		長谷川和宏	「頰の病気に対する“患者さんに優しい”最新の手術」
第8回	2013年4月6日	本間 隆夫	「くびの痛みが治りにくいとき」
		長谷川和宏	「せぼねの健康管理」
		早稲田大学スポーツ科学術院 金岡 恒治 教授	「痛まない強い腰をつくる」
第9回	2014年4月5日	本間 隆夫	「せなかの痛みが治らないとき」
		長谷川和宏	「日本で最初のせぼね全体の立体像」
		下田 晴華	「せぼねが化膿したならば」
		石井 圭史	「せぼねが曲がってきた場合」
第10回	2015年4月4日	長谷川和宏	「健全な“せぼね”とは？」
		新潟中央病院 山崎 昭義 院長	「骨粗鬆症によるせぼねのつぶれを簡単に治せる方法」
		新潟市民病院 石川 誠一 部長	「姿勢と腰痛・下肢痛について」

【県民フォーラム】

## 第1回 せきついフォーラム

日 程：平成 18 年 4 月 30 日（日曜日）

開 場：13：00

開 演：13：30～16：00

会 場：新潟市民プラザ NEXT 21 ビル 6 階

住 所：新潟市西堀 6 番町 866 番地

T E L：025 - 226 - 5500

主 催

新潟脊椎外科センター  
（亀田第一病院内）

〒950-0165 新潟市西町 2 - 5 - 22

代表 T E L 025 - 382 - 3111

後 援：新潟市

：新潟脊椎外科研究会

## 開会挨拶

13:30 ~ 13:35

新潟脊椎外科研究会 佐藤 栄 会長  
(富永草野病院院長, 新潟脊椎脊髄病センター長)

## 御挨拶

13:35 ~ 13:45

新潟市議会 古泉 幸一 議員

## 講演 I 「あなたの腰痛が治りにくいわけ」

13:45 ~ 14:45

新潟脊椎外科センター 本間 隆夫 センター長

通院している人はもちろん、手術を受けた人のなかにも、思うように腰痛が治らず困っている人が多勢います。治りにくい人には、治りにくくなっている理由がちゃんとあるものなのです。それらのごく当たり前のことから、びっくりするような意外なものまで実にいろいろです。腰痛をうまく治すには、何よりもまず、治りにくくしている理由に気がついて、それを自分の力で改めなければなりません。

今日は、腰痛が治りにくくなっている代表的な理由をお示しますので、あなたはどれに該当するのかを御自分で考えてあなたの腰痛治療を見直してみましょう。



本間 隆夫 先生

### プロフィール

昭和21年 新潟県佐渡市生まれ

昭和46年 信州大学医学部卒

昭和47年 新潟大学整形外科入局 脊椎外科研究班を結成

昭和57年 新潟大学整形外科助手 第4代脊椎外科研究会代表となる

以後、新潟大学整形外科で脊椎外科の脊椎外科の教育、研究を指導

同時に、新潟中央病院での脊椎外科の指導育成を兼任

平成元年 新潟大学医学部講師に昇任

平成11年 亀田第一病院に新潟脊椎外科センターを開設

新潟大学在職中：日本整形外科学評議員、東北脊椎外科研究会会長、新潟脊椎外科研究会初代会長、厚生省特定疾患脊柱靭帯骨化症調査研究班員 ほか を歴任

現在：東日本整形災害外科学会評議員、日本整形外科学会安全医療推進専門委員、日本整形外科学会認定専門医、日本脊椎脊髄病学会認定指導医、医学博士

(平成18年第1回せきついフォーラムより)

休 憩

14 : 45 ~ 14 : 55

講演Ⅱ「脊椎の病気 — 最新の治療は —」

14 : 55 ~ 15 : 55

新潟脊椎外科センター 長谷川 和宏 副センター長

脊椎には実に様々な病気があります。治療の面からみると、自然に治ってしまうものもあれば手術によって悪いところを切除しなければ治癒しないものもあるわけです。例えば、皆さんご存知の椎間板ヘルニアは、そのほとんどが実は自然に治ってしまうのです。手術でヘルニアを切除しないと治らないのは、ほんの一部だけです。このように、どのような場合に手術をしたほうが良いのかについての具体的なことはあまり知られていません。よくみられる疾患について、どのような場合に、どのような治療が適切なのかをわかりやすくお話ししたいと思います。



長谷川 和宏 先生

#### プロフィール

昭和37年 栃木県宇都宮市生まれ  
昭和62年 新潟大学医学部卒  
昭和同年 新潟大学整形外科入局 脊椎外科の研修開始  
平成11年 新潟大学整形外科助手、退職した本間現センター長にかわって第5代脊椎外科研究班代表となる  
以後平成16年まで、新潟大学で脊椎外科を指導  
平成14年 新潟大学付属病院 講師に昇任  
平成16年 聖隷浜松病院せぼねセンターを開設、初代センター長  
平成17年 新潟脊椎外科センター 副センター長に就任

現在は

日本整形外科学会：認定医、脊椎脊髄病医、脊椎内視鏡下手術・技術認定制度委員会・医療安全対策小委員会アドバイザー、脊椎内視鏡下手術・技術認定医 医学博士  
日本脊椎脊髄病学会：指導医、評議員  
北米脊椎外科学会：コレスポンディングメンバー  
日本脊椎インストゥルメンテーション学会：幹事  
日本内視鏡低侵襲脊椎外科学会：幹事  
東海脊椎外科研究会：幹事  
他

閉会挨拶

15 : 55 ~ 16 : 00

亀田第一病院 渡辺 研二 副院長

(平成18年第1回 せきついフォーラムより)

## 第1回 せきついフォーラムの様子



## 4. 学会、医学雑誌関連活動

### 整形外科・脊椎外科関連学会

#### 1) 日本整形外科学会

専門医および脊椎脊髄病医：常勤医全員

脊椎内視鏡下手術・技術認定医：長谷川・下田

脊椎内視鏡下手術・技術認定制度委員会 審査委員長：長谷川

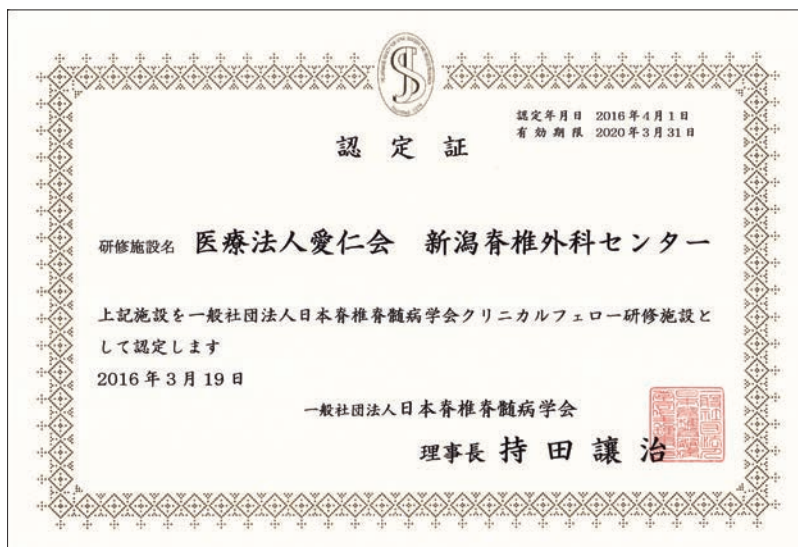
脊椎脊髄病委員会 委員：長谷川

#### 2) 日本脊椎脊髄病学会

◆理事、評議員：長谷川

◆指導医：全員

◆学術雑誌編集員：長谷川



日本脊椎脊髄病学会クリニカルフェロー認定施設 認定証

3) 国際腰椎学会 active member：長谷川

4) 国際側彎症学会 Active fellow：長谷川

5) 北米脊椎外科学会 active member：長谷川

6) AOSpine, アジア・太平洋地域 理事：長谷川

7) 日本側弯症学会、幹事、雑誌編集委員 他：長谷川

8) 日本脊椎インストゥルメンテーション学会、幹事 他：長谷川

9) 日本内視鏡低侵襲脊椎外科学会、幹事、雑誌編集委員：長谷川

- 
- 10) 日本成人脊柱変形学会、幹事：長谷川
  - 11) キューバ整形外科学会、Corresponding Member：長谷川
  - 12) 日本臨床バイオメカニクス学会：長谷川
  - 13) <経済産業省> 医療機器等の開発・実用化促進のためのガイドライン策定事業～独立行政法人産業技術総合研究所主導内埋め込み型材料分野 高生体適合性（カスタムメイド）インプラント開発ワーキンググループ 委員：長谷川
  - 14) 国立医薬品食品衛生研究所 医療機器部 次世代医療機器評価指標作成事業 脊椎インプラント審査ワーキンググループ 委員：長谷川
  - 15) 独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）専門委員：長谷川

### 医学雑誌編集委員

- 1) European Journal of Orthopaedic Surgery & Traumatology, アジア地域 編集長：長谷川
- 2) Spine Surgery and Related Research, 代表編集委員：長谷川
- 3) Journal of Orthopaedic Science, 編集委員：長谷川
- 4) 日本脊椎脊髄病学会誌、担当理事：長谷川
- 5) 日本側彎症学会誌、編集委員：長谷川
- 6) 日本低侵襲脊椎外科学会雑誌、編集委員：長谷川



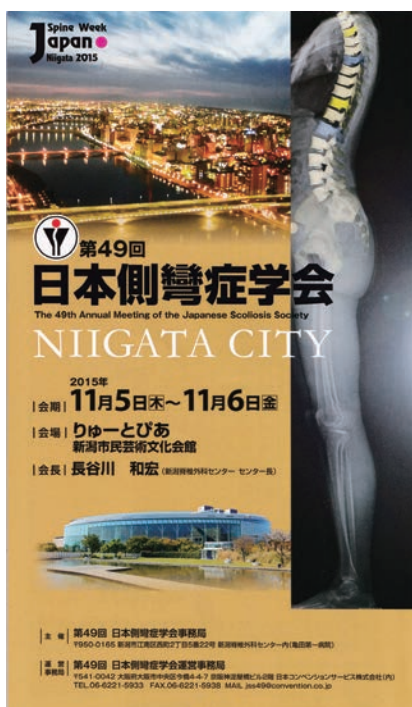
新潟脊椎外科センター 創立準備会議



## 学会長

名称	会長	開催日	会場
第12回日本内視鏡低侵襲脊椎外科学会	長谷川和宏	2008年 11月20日	ニチイ学館 神戸ポートアイランドセンター
第43回脊椎外科同好会	本間 隆夫	2010年 8月28日	ホテル日航新潟
第15回 ARGOS	長谷川和宏	2011年 1月27-28日	パリ、フランス
第49回日本側弯症学会	長谷川和宏	2015年 11月5-6日	りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館（新潟市）
第6回日本成人脊柱変形学会	長谷川和宏	2016年 3月12日	新潟大学 新潟医療人育成センター

### 第12回日本内視鏡低侵襲脊椎外科学会学術集会



## 5. 受賞

- ◇ 2006 長谷川和宏. 国際腰椎学会 日本支部奨励賞
- ◇ 2007 Hasegawa K. Best Poster Presentation Award, Association européenne des Groupes d'études pour l'Ostéosynthèse rachidienne (ARGOS)
- ◇ 2008 長谷川和宏. 脊椎脊髄病学会 第3回 Visiting Scholar Program Member
- ◇ 2008 Hasegawa K. European Cervical Spine Research Society, The Mario Boni Award (Best presentation award)
- ◇ 2010 Hasegawa K. AOSpine Japan Research Project, A clinical study on radiological findings of lumbar segmental instability with application of intraoperative measurement (IOM) system
- ◇ 2011 長谷川和宏. Japanese Patent of intraoperative measurement system of lumbar segmental instability
  - ① JP 4756113 腰椎可動性測定システム (2011.6.10)
  - ② JP 4756114 腰椎可動性測定用把持器 (2011.6.10)
  - ③ JP 4756115 椎間板可動性測定手段 (2011.6.10)
- ◇ 2012 長谷川和宏. 財団法人にいがた産業創造機構:市場開拓技術構築事業 (平成24年度事業) 助成金「新潟発・革新的脊椎診断/評価システムとインプラントの開発」(代表研究者 新潟大学 原利招)
- ◇ 2014 Ishii K, Hasegawa K. AOSpine Japan Research Project, A clinical study on a relationship between radiographic sagittal spino-pelvic alignment and gait analysis using a treadmill. By Ishii K & Hasegawa K
- ◇ 2014 長谷川和宏. 文部科学省研究開発施設共用等促進費補助金 (橋渡し研究加速ネットワークプログラム) 「低弾性率チタン合金を用いた骨粗鬆症患者向け脊椎固定器具の開発」(平成26年度事業) 分担研究 (代表研究者 東北大学 新家光雄)
- ◇ 2016 長谷川和宏. 新潟大学整形外科 同窓会顕彰地域医療賞

## 6. 学術業績

### 1. 学術論文

1. 本間隆夫, 長谷川和宏. Spinal instrumentation surgery の合併症 - 椎弓根スクリューと椎間ケージによる PLIF での特性 -. 脊椎脊髄 2004; 17: 287-94.
2. 渡辺 慶, 長谷川和宏, 平野 徹, 遠藤直人. 特発性側弯症に対する single rod system を用いた前方矯正固定術. 脊椎脊髄 2004; 17: 307-11.
3. 橘 幸太, 長谷川和宏, 宇仁和弘, 北原 恒, 原 利昭. 段階的脊椎損傷モデルにおける屈曲・伸展時の椎間板内圧の変化. 日本臨床バイオメカニクス学会誌 2004; 25: 149-53.
4. 長谷川和宏. 脊椎脊髄外科医への修練について. 整形外科 2005; 56: 774.
5. 長谷川和宏. Nomade: 脊椎脊髄外科センター構想の提言. 脊椎脊髄 2005; 18: 1199-200.
6. 長谷川和宏. Threaded interbody cage を使用した腰椎固定術～固定原理と単独使用による方法を中心に～. J MIOS 2005; 37: 53-61.
7. Watanabe K, Hasegawa K, Hirano T, Uchiyama S, Endo N. Use of the Scoliosis Research Society Outcomes Instrument to Evaluate Patient Outcome in Untreated Idiopathic Scoliosis Patients in Japan: Part I: Comparison With Nonscoliosis Group: Preliminary/Limited Review in a Japanese Population. Spine. 2005; 30: 1197-201.
8. Watanabe K, Hasegawa K, Hirano T, Uchiyama S, Endo N. Use of the Scoliosis Research Society Outcomes Instrument to Evaluate Patient Outcome in Untreated Idiopathic Scoliosis Patients in Japan: Part II: Relation Between Spinal Deformity and Patient Outcomes. Spine. 2005; 30: 1202-5.
9. Watanabe K, Hasegawa K, Hirano T, Endo N, Yamazaki A, Homma T. Anterior spinal decompression and fusion for cervical flexion myelopathy in young patients. J Neurosurg (Spine) 2005; 3: 86-91.
10. 渡辺 慶, 長谷川和宏, 平野 徹, 伊藤拓緯. 脊柱側弯症後方インストゥルメンテーション手術における  $\beta$ -TCP の利用～腸骨移植を省略できるか～. 日本脊椎インストゥルメンテーション学会誌 2005; 4: 11-4.
11. 矢澤 隆, 長谷川和宏, 遠藤直人, 原 利昭, 佐治木修. Sublaminar wiring 法におけるチタンケーブルとポリエチレンケーブルの力学特性の比較. 日本インストゥルメンテーション学会誌 2005; 4: 75-9. (2005 年日本インストゥルメンテーション学会ベストペーパー賞)
12. 山田梨絵, 後藤泰代, 大竹幸江, 廣川佐代子, 渡辺 慶, 平野 徹, 伊藤拓緯, 長谷川和宏. 側弯症が患児とその母親にあたえる心理的影響. 脊柱変形 2005; 20:115-8.

- 
13. 渡辺慶, 長谷川和宏, 平野徹, 伊藤拓緯, 遠藤直人. 側弯症矯正手術による患者アウトカム評価 SRS-24 の変化～縦断的検討～. 脊柱変形 2005; 20:123-8.
  14. 平野 徹, 渡辺 慶, 長谷川和宏. 特発性側弯症における術前後スポーツ活動の変化. 脊柱変形 2005; 20: 129-32.
  15. 佐治木修, 北原 恒, 矢澤 隆, 長谷川和宏, 原 利昭. Sublaminar wiring 法におけるポリエチレンケーブルとチタンケーブルの椎弓に与える力学的影響の相違. 日本臨床バイオメカニクス学会誌 2005; 26: 115-9.
  16. 長谷川和宏. Column : 文豪が描いた「脊柱変形」. Primary Care Frontier 2006; Vol.2: No.2.
  17. 長谷川和宏, 長野純二, 井上善也, 北原 恒, 宇仁和弘, 原 利昭. Graf 制動術による隣接椎間負荷軽減効果－多椎間モデルにおける力学特性と臨床応用－. J. Tokai Spinal Surg. 2006; 20:32-7.
  18. 長谷川和宏, 大生定義, 牧 裕. 座談会 : 手のしびれ. PrimaryCareFrontier 2006; 2: 2-11.
  19. 長谷川和宏, 本間隆夫, 下田晴華, 長野純二. 椎間ケージを用いた腰仙椎前方固定術の意義～PLIF との比較検討～. 日本脊椎インストゥルメンテーション学会誌 2006; 5: 27-32.
  20. 渡辺 慶, 長谷川和宏, 生沼武男, 他. 高齢者の脊柱変形, 椎間不安定性は腰痛, QOL にどのようにかかわっているか. 整形外科 2006; 56; 1489-93.
  21. Takano K, Hasegawa K, Kitahara K, Hara T, Sato S, Endo N. Lumbar segmental motion properties in vivo determined by a new intraoperative measurement system. Acta Med et Biol 2006; 54: 1-8.
  22. Watanabe K, Hasegawa K, Hirano T, Uchiyama S, Endo N. Evaluation of postoperative residual deformity and patient outcome in idiopathic scoliosis patients in Japan using Scoliosis Research Society Outcomes Instrument. Spine. 2007; 32: 550-4.
  23. Hasegawa K, Homma T, Hirano H, Ogose A, Hotta T, Yajiri Y, Nagano J, Inoue Y. Margin-Free Spondylectomy for Extended Malignant Spine Tumors: Surgical Technique and Outcome of 13 Cases. Spine. 2007; 32(1):142-8.
  24. Hasegawa K, Homma T, Chiba Y. Upper extremity palsy following cervical decompression surgery results from a transient spinal cord lesion. Spine 2007; 32: E197-202.
  25. 長谷川和宏, 本間隆夫, 渡辺 慶. 高齢者側弯症の外科的治療. 脊椎脊髄 2007; 20: 535-45.
  26. Hasegawa K, Homma T, Shimoda H. Biomechanical and clinical aspects of a dynamic lumbar stabilization for lumbar canal stenosis. ARGOSPINE News & Journal 2007; 15: 45. (ARGOS best poster presentation award)
  27. 長谷川和宏, 本間隆夫, 下田晴華, 長野純二, 渡辺研二, 大矢真奈美. 脊椎外科手術における術中脊髄モニタリングの意義. 新潟整外研会誌 2007; 23: 21-6.
-

- 
28. 長谷川和宏, 本間隆夫. 腰椎変性側弯症に対する手術療法. 脊椎脊髓 2007; 20: 996-1006.
  29. 長谷川和宏, 鈴木信正, 伴信太郎. 座談会: 姿勢異常. PrimaryCareFrontier 2007; 3: 2-13.
  30. 北原 恒, 長谷川和宏, 原 利昭. 脊椎損傷モデルによる回旋運動特性および椎間板内圧変化特性評価. 日本臨床バイオメカニクス学会誌 2007; 28: 131-8.
  31. 北原 恒, 長谷川和宏, 原 利昭. 損傷椎間の側屈運動時における椎間板内圧変化特性の評価. 日本臨床バイオメカニクス学会誌 2007; 28: 153-60.
  32. Watanabe K, Lenke LG, Bridwell KH, Hasegawa K, Hirano T, Endo N, Cheh G, Kim YJ, Hensley M, Stobbs G, Koester L. Cross-cultural Comparison of the Scoliosis Research Society Outcomes Instrument Between American and Japanese Idiopathic Scoliosis Patients. Are There Differences? Spine 2007; 32: 2711-4.
  33. Shimoda H, Hasegawa K, Homma T. A prospective study on the relation between surgical site infection and the duration of prophylactic antibiotic administration in spine surgery. J Jpn Soc Spine Surg Rel Res 2007; 18: 637-41.
  34. Kitahara K, Hasegawa K, et al.: An in Vitro Biomechanical Evaluation of the Mobility of Adjacent Segments after Spinal Instrumentation. Journal of Biomechanical Engineering and Science 2007; 2(4): 197-205.
  35. Kitahara K, Hasegawa K, Hara T. Development and evaluation of a system for intraoperative measurement of spinal rotational mobility. J Biomech Sci Eng 2007; 2: 187-96.
  36. 平野 徹, 長谷川和宏, 澤上公彦. 幼児症例に対する側弯症手術. 整形・災害外科 2007; 50: 1429-37.
  37. 平野 徹, 佐藤 剛, 伊藤拓緯, 長谷川和宏, 内山政二. 思春期特発性側弯症に対する装具療法の検討—胸椎カーブのみに限定して—. 脊柱変形 2007; 22: 47-53.
  38. 渡辺 慶, Lenke LG, Bridwell KH, 長谷川和宏, 平野徹, 伊藤拓緯, 遠藤直人. アメリカ人と日本人特発性側弯症における Scoliosis Research Society Outcomes Instrument のスコアに差があるか? 脊柱変形 2007; 22: 188-92.
  39. 長谷川徹, 長谷川和宏, 他. 脊椎内視鏡下手術の現状—2006年1月～12月手術施行状況調査・インシデント報告集計結果—, 日整会誌 2007; 81: 1072-7.
  40. Hasegawa K. Clinical case discussion: Lumbar canal stenosis with occult segmental instability. ARGOSpine News & Journal 2008; 17 (Jan): 17-23.
  41. 長谷川和宏. 頸椎疾患によるしびれ・痛みをどう診るか. medicina 2008; 45: 259-61.
  42. 長谷川和宏, 大生定義, 福武敏夫, 関谷紀貴. 座談会: しびれ・痛みをどう見切るか. medicina 2008; 45: 334-43.
-

- 
43. Hasegawa K, Kitahara K, Hara T, Takano K, Shimoda H, Homma T. Evaluation of lumbar segmental instability in degenerative diseases using a new intraoperative measurement system. *J Neurosurg Spine* 2008; 8: 255-62.
  44. 長谷川和宏, 本間隆夫, 下田晴華, 平野徹, 渡辺 慶, 内山政二. 局所骨とセラミックスの移植骨による側弯症後方手術-前向き研究による評価-. *脊柱変形* 2008; 22: 132-41.
  45. 長谷川和宏. 側弯症診察のポイント. *関節外科* 2008; 27: 558-65.
  46. Hasegawa K, Hirano T, Shimoda H, Homma T, Morita O. Indications for cervical pedicle screw instrumentation in nontraumatic lesions. *Spine* 2008; 33: 2284-9.
  47. 長谷川和宏. 「Sicko」のいない国キューバ. *新潟県医師会報* 2008; 704: 27-30.
  48. 長谷川和宏, 菅谷啓之, 北西史直. 座談会: 肩の痛み. *PrimaryCareFrontier* 2008; 4: 2-7.
  49. 保坂登, 長谷川和宏, 下田晴華, 他. 骨粗鬆症性椎体偽関節の手術治療経験. *新潟整外研会誌* 2008; 24: 1-4.
  50. 江川博昭, 長野純二, 井上善也, 長谷川和宏. AVFを合併した脊髄係留症候群の一例. *新潟整外研会誌* 2008; 24: 15-8.
  51. Hasegawa K, Kitahara K, Shimoda H, Takano K, Hara T. Biomechanical evaluation of segmental instability in degenerative lumbar spondylolisthesis. *Eur Spine J* 2009; 18: 465-70.
  52. 長谷川和宏. 頸椎疾患における“偽性局在徴候”. *脊椎脊髄* 2009; 22: 941-7.
  53. 長谷川和宏, 国分正一, 小林裕幸. 座談会: 頸椎症性脊髄症. *PrimaryCareFrontier* 2009; 5: 2-11.
  54. 長谷川和宏. 北京での教育・診療および中国整形外科学会(蘇州)での講演. *日本脊椎脊髄病学会雑誌* 2009; 20(4):886-8
  55. 長谷川和宏, 北原 恒, 下田晴華, 高野 光, 原 利昭. 腰椎変性側弯症における罹患椎間の生体力学的評価. *脊柱変形* 2009; 24: 22-7.
  56. 北原恒, 朝比奈和哉, 長谷川和宏, 原 利昭. 腰椎回旋可動性測定システムの開発とその有用性の検討. *日本臨床バイオメカニクス学会誌* 2009; 30: 135-40.
  57. 北原 恒, 朝比奈和哉, 長谷川和宏, 原 利昭. 段階的損傷モデルを用いた椎間の屈曲-伸展および回旋不安定性の評価. *日本臨床バイオメカニクス学会誌* 2009; 30: 141-6.
  58. 北原 恒, 長谷川和宏, 朝比奈和哉, 織部一弥, 原 利昭. 脊椎固定術および制動術が隣接椎間へ及ぼす生体力学的影響. *日本臨床バイオメカニクス学会誌* 2009; 30: 179-84.
  59. 北原 恒, 長谷川和宏, 朝比奈和哉, 織部一弥, 原 利昭. 椎間関節切除モデルを用いた回旋運動時の椎間板表面変位の測定. *日本臨床バイオメカニクス学会誌* 2009; 30: 191-6.
-

- 
60. Hasegawa K, Kitahara K, Shimoda H, Hara T. Facet opening in lumbar degenerative diseases represents segmental instability. *J Neurosurg Spine* 2010; 12: 687-93.
61. 長谷川和宏. 腰椎変性側弯症の診断と治療. *大分県整形外科医会誌* 2010; 29: 30-2.
62. 長谷川和宏, 菅谷啓之, 矢部正浩. 座談会: 肩関節周囲炎. *PrimaryCareFrontier* 2010; 6: 2-7.
63. Hasegawa K. Treatment options for cervical myelopathy in Japan. *Le Rachis* 2010; 6:19.
64. 下田晴華, 長谷川和宏, 高野 光, 本間隆夫. 非分解型ケリソンロンジャー内部の残渣は洗浄, 滅菌後も感染源となる. *臨整外* 2010; 45: 521-5.
65. 土井田稔, 宇野耕吉, 松本守雄, 長谷川和宏. 座談会: 中・高齢者の脊椎変形に対する治療戦略. *THE SPINE perspectives* 2010; 7: 1-6.
66. 長谷川和宏. 低侵襲腰椎除圧術: 総論. *脊椎脊髄* 2011; 24: 12-7.
67. 長谷川和宏. 椎間板の生体力学: 椎間安定要素の損傷と椎間板内圧. *脊椎脊髄* 2011; 24: 65-72.
68. 長谷川和宏. In vivo における椎間安定性: 術中椎間安定性の評価. *脊椎脊髄* 2011; 24:143-50.
69. Hasegawa K, Koike T, Shimoda H, Homma T, Takano K, Sasaki K. A 534 cases prospective study to determine an alarm point in intraoperative neuromonitoring. *J Spine Res* 2011; 2: 291-6.
70. Hasegawa K, Shimoda H, Kitahara K, Sasaki K, Homma T. What are the reliable radiological findings that indicate lumbar segmental instability? *J Bone Joint Surg* 2011; 93B: 650-7.
71. 長谷川和宏, 千葉一裕, 豊島 元. 座談会: 骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折. *PrimaryCareFrontier* 2011; 7: 2-11.
72. 林 和憲, 長野純二, 服部 敏, 長谷川和宏. 胸髄腹側に発生した硬膜外髄外腫瘍の2例. *J Spine Res* 2011; 2: 882-6.
73. 北原 恒, 長谷川和宏, 三浦 泰, 織部一弥, 原 利昭. 腰椎低侵襲除圧術が椎間運動特性に及ぼす影響. *日本臨床バイオメカニクス学会誌* 2011; 32: 135-40.
74. 渡辺 慶, 平野 徹, 和泉智博, 佐野敦樹, 長谷川和宏, 伊藤拓緯, 内山 徹. 骨成熟前の症候群性側弯症に対する後方矯正固定術単独の治療成績. *J Spine Res* 2011; 2: 1890-5.
75. Watanabe K, Homma T, Yamazaki A, Hirano T, Hasegawa K, Ito T, Katsumi K, Ohashi M. Surgical outcomes of spinal fusion surgery for lumbar degenerative scoliosis in patients with Parkinson's disease: Reconstruction failure and progressive deformity. *J Spine Res* 2011; 2: 1913-20.
76. Yoshihara H, Kepler C, Hasegawa K, Rawlins BA. Surgical treatment for atlantooccipital osteoarthritis: a case report of two patients. *Eur Spine J* 2011; 20(Suppl 2): S243-7.
-

- 
77. 長谷川和宏, 下田晴華. 腰部脊柱管狭窄症に対する内視鏡下除圧術. *Monthly Book Orthopaedics* 2012; 25: 27-33.
78. 長谷川和宏. 低侵襲 TLIF における椎弓根スクリュー固定術. *イラストレイテッド・サージェリー, 脊椎脊髄* 2012; 25: 515-23.
79. Hasegawa K. Editorial: Evolution in diagnosis and treatment of scoliosis. *ARGOSPINE News & Journal* 2012; 24: 45.
80. 長谷川和宏, 下田晴華, 佐々木寛二, 本間隆夫. 脊柱変性後側弯症における手術選択のためのアルゴリズムの提言 - 主カーブ 30° 以上の初期 33 例の検討. *J Spine Res* 2012; 3: 1505-11.
81. 下田晴華, 長谷川和宏, 佐々木寛二. 腰部脊柱管狭窄症に対する MEL 法と MILD 法の比較. *J Spine Res* 2012; 3: 1122-7.
82. 長谷川徹, 佐藤公昭, 中村博亮, 長谷川和宏, 蜂谷裕道, 松本守雄, 吉本三徳. 脊椎内視鏡下手術の現状 - 2011 年 1 月 ~ 12 月 手術施行状況調査・インシデント報告集計結果 -. *日整会誌* 2012; 86: 724-9.
83. Hasegawa K, Kitahara K, Shimoda H, Hara T. Biomechanical evaluation of destabilization following minimally invasive decompression for lumbar spinal canal stenosis. *J Neurosurg Spine* 2013; 15: 504-10
84. 長谷川和宏, 下田晴華, 石井圭史, 本間隆夫, 吉田正一. 腰部脊柱管狭窄症に対する低侵襲除圧術において硬膜損傷を予防する工夫. *J Spine Res* 2013; 4: 1274-8.
85. Sasaki K, Hasegawa K, Shimoda H, Ishii K, Homma T. Can recumbent magnetic resonance imaging replace myelography or computed tomography myelography for detecting lumbar spinal stenosis? *Eur J Orthop Surg Traumatol* 2013; 23 Suppl 1: S77-83
86. 長谷川和宏. 高齢者脊柱変形と腰部脊柱管狭窄. *整形外科看護* 2014; 19: 48-9.
87. 長谷川和宏, 石井 賢. 平成 25 年度次世代医療機器評価指標作成事業. 脊椎インプラント分野審査 WG 報告書, 座長戸山芳昭, 腰椎後方制動システム. P40-57.
88. Hasegawa K, Kitahara K, Shimoda H, Ishii K, Ono M, Homma T, Watanabe K. Lumbar degenerative spondylolisthesis is not always unstable - Clinic-biomechanical evidence. *Spine* 2014; 39: 2127-35.
89. Hasegawa K, Okamoto M, Ishii K, Shimoda H, Homma T, Watanabe K. The first report on normal sagittal spinopelvic alignment of Japanese population using EOS imaging. *Scoliosis* 2015; 10(Suppl): O35.
90. Hasegawa K, Kitahara K, Shimoda H, Watanabe K. Intraoperative determination of surgical procedure using a novel segmental motion measurement system for lumbar spinal stenosis with / without segmental instability: A prospective comparative study between decompression versus fusion. *J Spine Res* 2015; 6: 909-18.
-



- 
91. 長谷川和宏. 40°以上の側弯を伴う矢状面アライメントの破綻した成人脊柱変形に対する脊柱矯正固定術の成績 - 2年以上経過例 -. 日整会誌 2015; 89: 495-503.
92. 長谷川和宏, 北原 恒. 低弾性率チタン合金脊椎固定器具を用いた脊椎固定術の効果に関するバイオメカニクス試験および有限要素法解析, 整形外科における材料のニーズの現在と未来. 2014年度文部科学省橋渡し研究加速ネットワークプログラムシリーズB「低弾性率チタン合金を用いた骨粗鬆症患者向け脊椎固定器具の開発」成果報告書, 研究代表者 新家光雄. P13-34.
93. 長谷川和宏. 腰椎椎間不安定性と椎間板変性. 日整会誌 2015; 89: 591-8.
94. Ishii K, Hasegawa K, Shimoda H, Homma T Sagittal spinal alignment and ambulation. *Scoliosis* 2015; 10 (Suppl) : O26.
95. Yoshida M, Hasegawa K, Kageyama I, Maeda S, Kitahara K. An anatomical study of ligamentum flavum in reference to minimum invasive lumbar decompression. *J Spine Res* 2015; 6: 103-9.
96. Hasegawa K, Okamoto M, Hatsushikano S, Shimoda H, Ono M, Watanabe K. Normative values of spino-pelvic sagittal alignment, balance, and health-related quality of life in relation to age in a cohort of healthy adult subjects. *European Spine J* 2016; 25: 3675-86.
97. Le Huec JC, Hasegawa K. Normative values for the spine shape parameters using 3D standing analysis from a database of 268 asymptomatic Caucasian and Japanese subjects. *Eur Spine J* 2016; 25: 3630-7. ( DOI 10.1007/s00586-016-4485-5)
98. Price R, Okamoto M, Le Huec JC, Hasegawa K. Normative spino-pelvic parameters in patients with the lumbarization of S1 compared to a normal asymptomatic population. *European Spine Journal* 2016; 25: 3694-8 (DOI 10.1007/s00586-016-4794-8) .
99. Fokter SK, Hasegawa K. Specialized issue: Lumbar spinal stenosis. Editorial. *Eur J Orthop Surg Traumatol* 2016; DOI 10.1007/s00590-016-1834-3
100. 大橋正幸, 平野 徹, 渡辺 慶, 山崎昭義, 長谷川和宏, 勝見敬一, 庄司寛和, 遠藤直人. 成人脊柱変形に対する仙骨を含む後方矯正固定術における proximal junctional kyphosis の検討 . *J Spine Res* 2016; 7: 1475-80.
101. 大橋正幸, 平野徹, 渡辺慶, 山崎昭義, 長谷川和宏, 勝見敬一, 庄司寛和, 遠藤直人. 成人脊柱変形に対する仙骨を含む後方矯正固定術の術後 PI-LL と臨床成績の関係 . *J Spine Res* 2016; 7: 1585-9.
102. Hasegawa K, Okamoto M, Hatsushikano S, Shimoda H, Ono M, Homma T, Watanabe K. Standing sagittal alignment of the whole axial skeleton in reference to the gravity line in humans. *J Anatomy* 2017; 230: 619-30 (doi: 10.1111/joa.12586) .
103. 長谷川和宏. Editorial: 第 49 回日本側彎症学会を開催して. *J Spine Res* 2017; 7: 1560-1.
-

- 
104. 長谷川和宏, 本間隆夫, 下田晴華. C5 麻痺予防のための大量メチルプレドニゾロン療法 (NASCIS-2). 特集: C5 麻痺の今. 脊椎脊髄 2017; 30: 233-8.
105. 長谷川和宏. Editorial: 「日本脊椎脊髄病学会特集号: 成人脊柱変形」刊行に当たって. J Spine Res 2017; 8: 1447.
106. Tardieu C, Hasegawa K, Haeusler M. How did the pelvis and vertebral column become a functional unit during the transition from occasional to permanent bipedalism? Anatomical Rec 2017; 300: 912-31. (DOI: 10.1002/ar.23577)
107. 大橋正幸, 長谷川和宏, 渡辺 慶. 脊柱変形の用語, 分類の整理. 特集: 高齢者脊柱変形 Up to Date. 脊椎脊髄 2017; 30: 254-8.
108. 渡辺 慶, 平野 徹, 大橋正幸, 長谷川和宏. Parkinson 病に伴う脊柱変形の外科治療. 特集: 高齢者脊柱変形 Up to Date. 脊椎脊髄 2017; 30: 254-8.
109. Shimohata K, Hasegawa K, Onodera O, Nishizawa M, Shimohata T. The clinical features, risk factors, and surgical treatment of cervicogenic headache in patients with cervical spine disorders requiring surgery. Headache 2017, (DOI:10.1111/head.13123)
110. Yamato Y, Matsuyama Y, Hasegawa K, et al. A Japanese nationwide multicenter survey on perioperative complications of corrective fusion for elderly patients with adult spinal deformity. J Orthop Sci 2017; 22: 237-42.
111. Yoshihara H, Yoneoka D, Paulino C, Agarwal S, Reyna JR, Hasegawa K. National trends and in-hospital outcomes of patients with solid organ transplant undergoing spinal fusion. Spine 2017; 42: E1231-7.
112. 小池崇志, 長谷川和宏, 下田晴華, 本間隆夫, 村岡幹夫. False negative 例をなくすための術中脊髄モニタリングアラームポイント: 変性疾患を主とした 318 例における前向き研究. 臨床整形外科 2017; 52: 1057-63.
113. Hasegawa K, Okamoto M, Hatsushikano S, Caseiro G, Watanabe K. Difference in whole spinal alignment between supine and standing positions in patients with adult spinal deformity using a new comparison method with slot-scanning three-dimensional X-ray imager and computed tomography through digital reconstructed radiography. BMC Musculoskeletal Disorders 2018; 19: 437 <https://doi.org/10.1186/s12891-018-2355-5>.
114. 長谷川和宏, 青田洋一, 金村徳相, 川上紀明. EOS の意義. J Spine Res 2018; 9: 1663-1670.
115. Mavrogenis AF, Megaloikonos PD, Mauffrey C, Scarlat MM, Simon P, Hasegawa K, Fokter SK, Kehr P. The best cited articles of the European Journal of Orthopaedic Surgery and Traumatology (EJOST) : a bibliometric analysis. Eur J Orthop Surg Traumatol <https://doi.org/10.1007/s00590-018-2147-5>, 2018; 28(4): 533-44.
-

- 
116. Watanabe K, Ohashi M, Hirano T, Katsumi K, Shoji H, Mizouchi T, Endo N, Hasegawa K. The influence of lumbar muscle volume on curve progression after skeletal maturity in patients with adolescent idiopathic scoliosis: A long-term follow-up study. *Spine Deformity* 2018; 6(6): 691-8.
117. Okamoto M, Jbour F, Sakai K, Hatsushikano S, Le Huec JC, Hasegawa K. Sagittal balance measures are more reproducible when measured in 3D vs in 2D using full-body EOS images. *European Radiology* 2018; 28(11): 4570-7. doi: 10.1007/s00330-018-5485-0.
118. Natarajan RN, Watanabe K, Hasegawa K. Biomechanical analysis of a long-segment fusion in a lumbar spine – a finite element model study. *J Biomech Eng* 2018; 140: / 091011-1.
119. Tono O, Hasegawa K, Okamoto M, Hatsushikano S, Shimoda H, Watanabe K, Harimaya K. Lumbar lordosis does not correlate with pelvic incidence in the cases with the lordosis apex located at L3 or above. *Eur Spine J* 2018; 28: 1948-54. DOI 10.1007/s00586-018-5695-9.
120. 小野真稔, 長谷川和宏, 下田晴華, 本間隆夫. 椎間ケージに生体材料を使用した低侵襲腰椎椎体間固定術の骨癒合過程に関する前向き研究. *J Spine Res* 2018; 9: 1416-22.
121. Yoshihara H, Hasegawa K, Okamoto M, Hatsushikano S, Watanabe K. Relationship between sagittal radiographic parameters and disability in patients with spinal disease using 3D standing analysis. *Orthop Traumatol Surg Res* 2018; 104(7): 1017-23. doi: 10.1016/j.otsr.2018.07.009.
122. Ohashi M, Hirano T, K.Watanabe, Hasegawa K, et al. En bloc spondylectomy for spinal metastases: detailed oncological outcomes at a minimum of 2 Years after surgery. *Asian Spine J* 2019; 13(2): 296-304. <https://doi.org/10.31616/asj.2018.0145>.
123. Ohashi M, K.Watanabe, Hirano T, Hasegawa K, et al. The natural course of compensatory lumbar curves in nonoperated patients with thoracic adolescent idiopathic scoliosis. *Spine* 2018; 44: E89–98.
124. Ohashi M, K.Watanabe, Hirano T, Hasegawa K, et al. Predicting factors at skeletal maturity for curve progression and low back pain in adult patients treated nonoperatively for adolescent idiopathic scoliosis with thoracolumbar/lumbar curves. A mean 25-year follow-up. *Spine* 2018; 43: E1403–11.
125. 長谷川和宏. Editorial: JSR 創刊 10 周年を迎えて. *J Spine Res* 2019; 10: 5.
126. 下田晴華, 長谷川和宏, 佐藤雄亮, 本間隆夫. 腰椎変性疾患の再狭窄例に対する経椎間関節除圧固定術 (TLIF) (直接除圧派). *MB Orthop* 2019; 32: 45-50.
127. 佐藤雄亮, 長谷川和宏, 岡本昌士, 初鹿野駿, 下田晴華, 本間隆夫. 全脊椎アライメントの測定. 特集: 傍脊柱筋の機能解剖学, 姿勢制御と手術アプローチ. *脊椎脊髄* 2019; 32: 433-7.
128. Watanabe K, Ohashi M, Hirano T, Katsumi K, Mizouchi T, Tashi H, Minato K, Hasegawa K, Endo N. Health-related quality of life in non-operated patients with adolescent idiopathic scoliosis: A mean 25-year follow-up study. *Spine* 2019 accepted.
-

- 
129. Okamoto M, Hasegawa K, Hatsushikano S, Watanabe K, Shimoda H, Kobayashi K, Sakamoto M. Relative position of sacral base in the pelvis and its correlation with spino-pelvic parameters. *Eur Spine J* 2019; doi: 10.1007/s00586-019-06118-7.
130. 佐藤雄亮, 長谷川和宏, 下田晴華. 腰椎椎間板ヘルニア摘出術 (MED). 特集: 脊椎内視鏡手術の進歩. *脊椎脊髄* 2019; 32(9): 809-13.
131. Ohashi M, K.Watanabe, Hirano T, Hasegawa K, et al. Long-term impacts of brace treatment for adolescent idiopathic scoliosis on body composition, paraspinal muscle morphology, and bone mineral density. *Spine* 2019; 44: E1075-82.
132. 初鹿野駿, 長谷川和宏, 岡本昌士, 佐藤雄亮, 下田晴華. 腰椎変性疾患に対する除圧術および固定術前後の立位全身矢状面アライメントおよびバランスの変化. *J Spine Res* 2019; 10: 1362-6.

## II. 学術著書

1. Hasegawa K, Hara T. Titanium Mesh Cage in Spinal Reconstruction Surgery: Biomechanics and Clinical Application. In: *Advances in Spinal Fusion – Molecular Science, Biomechanics, and Clinical Management*. Marcel Dekker, Inc., 2004; 245-61.
2. 長谷川和宏. 脊柱側弯症に対する手術. *整形外科看護*, MC メディカ出版, 大阪府, 2005; 84-93.
3. 長谷川和宏. 脊椎分離症, 脊椎分離すべり症. *今日の治療指針*, 医学書院, 2006; 751-2.
4. 長谷川和宏. 脊椎圧迫骨折. *今日の治療指針*, 医学書院, 2007; 763-4.
5. 長谷川和宏. 椎体骨折. *最新整形外科学大系*, 第25巻 高齢者の運動器疾患, 中山書店, 東京, 2007; 108-17.
6. 本間隆夫. 究極のインフォームドコンセント. *トラブルにならない整形外科インフォームドコンセント-わかるIC, わからないIC*, 金原出版(株), 東京, 2007; 227.
7. 長谷川和宏, 本間隆夫. 手術の一般的全身合併症. *トラブルにならない整形外科インフォームドコンセント-わかるIC, わからないIC*, 金原出版(株), 東京, 2007; 24-7.
8. 長谷川和宏, 本間隆夫. インフォームドコンセントにまつわる心遣い・優しい言葉. *トラブルにならない整形外科インフォームドコンセント-わかるIC, わからないIC*, 金原出版(株), 東京, 2007; 189-93.
9. Shimada Y, Hasegawa K, Asano S, Miyakoshi N. Posterior Fixation Techniques for Atlantoaxial Instability. In: *Minimally Invasive Spinal Fusion Techniques*. Lewandrowski KU, et al. eds. Summit Communications, LLC, New York, 2007; 203-21.
10. 長谷川和宏. ポストンブレース. *脊椎装具に強くなる! Basics & Tips*, 三輪書店(株), 東京, 2012; 61-5.

- 
11. Hasegawa K. ed., Editorial: Evolution in diagnosis and treatment of scoliosis. ARGOSPINE News & Journal 2012; 24: 45.
  12. 長谷川和宏. 腰部脊柱管狭窄症. 今日の治療と看護, (株南江堂, 東京, 2013; 1022-3.
  13. 長谷川和宏. 診かたと注意点. 側弯症治療の最前線: 基礎編, (株医薬ジャーナル社, 大阪市, 2013; 88-96.
  14. 長谷川和宏. 画像診断 (X線, CT, MRI). 側弯症治療の最前線: 基礎編, (株医薬ジャーナル社, 大阪市, 2013; 97-107.
  15. 長谷川和宏. 脊椎内視鏡下手術のための基本手技: ベーシックセットアップ. 脊椎内視鏡下手術, (株文光堂, 東京都, 2013; 18-21.
  16. 長谷川和宏. 脊椎内視鏡下手術の合併症: MED後の硬膜外血腫 - 止血法から予防対策まで -. 脊椎内視鏡下手術, (株文光堂, 東京都, 2013; 326-31.
  17. 長谷川和宏. 術中脊髄機能モニタリング, wake-up test. 側弯症治療の最前線: 手術編, (株医薬ジャーナル社, 大阪市, 2014; 137-46.
  18. 長谷川和宏. 成人脊柱変形: 治療戦略の基本的考え方. 側弯症治療の最前線: 手術編, (株医薬ジャーナル社, 大阪市, 2014; 308-23.
  19. 長谷川和宏. 低侵襲 TLIF における椎弓根スクリュー固定. 脊椎脊髄の手術 第II巻, (株三輪書店, 東京都, 2015; 342-50
  20. 長谷川和宏. 立位グローバルアライメント・バランス. 成人脊柱変形治療の最前線, (株南江堂, 東京, 2017; 23-37.
  21. 岡本昌士, 長谷川和宏. 特殊な病態評価: Slot-scanning 3D X-ray imager (EOS), 立位バランス, 歩行解析. 成人脊柱変形治療の最前線, (株南江堂, 東京, 2017; 23-37.
  22. 渡辺 慶, 長谷川和宏. 手術手技: インストゥルメンテーション 後方法. 成人脊柱変形治療の最前線, (株南江堂, 東京, 2017; 296-308.
  23. Hasegawa K, Watanabe K. In Vivo Biomechanical Assessment of the Lumbar Segment Using the Intraoperative Measurement System. Section 2: Basic Science, Chapter 11 In: Lumbar Spine Online Textbook. Boden SD Ed., Wheelless' Textbook of Orthopaedics, Data Trace Internet Publishing, Towson, Maryland, USA, 2019, (<http://www.wheelsonline.com/ortho/issls/contents>) .
  24. Hasegawa K, Watanabe K. Decompression for lumbar spinal stenosis based on a concept with biomechanically proven minimally invasive procedure. Section 11: Surgery Principles, Chapter 11 In: Lumbar Spine Online Textbook. Boden SD Ed., Wheelless' Textbook of Orthopaedics, Data Trace Internet Publishing, Towson, Maryland, USA, 2019, (<http://www.wheelsonline.com/ortho/issls/contents>) .
-

## 7. 学会発表および講演

### 学会発表・講演数

年	発表
2005	21
2006	27
2007	41
2008	26
2009	43
2010	30
2011	19
2012	38
2013	32
2014	49
2015	55
2016	44
2017	53
2018	52



第7回 せきついフォーラム



ARGOS 2011



第9回 せきついフォーラム



皆様、今後ともよろしく願いたします。

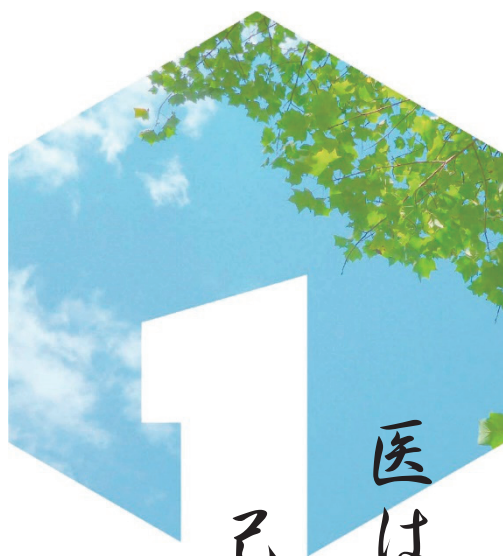
2019年11月23日発行

---

編集発行 医療法人愛仁会 新潟脊椎外科センター（亀田第一病院）  
〒950-0165 新潟市江南区西町2丁目5番22号  
TEL 025-382-3111（代）

印刷 株式会社 大 創  
〒951-8127 新潟市中央区関屋下川原町1丁目2番地2





医は仁と

己はげまし

吹雪中

信一

医療法人愛仁会 亀田第一病院（旧 渡辺病院）創設者 渡邊信一